

〈NGOと社会〉公開シンポジウム

第2回

人道支援の今とNGOのこれから

9.11はNGOにも大きな影をおとしました。
政治的に中立であることによって確保してきた人道支援に
軍がより積極的に関与するようになってきたからです。
またそこに援助資金が集まることによって軍とNGOの協力という新たな側面も生まれました。
この人道支援を巡る状況の変化に対して、果たしてNGOはどのように対処してきたのでしょうか？
また、これからどうすれば良いのでしょうか？
この問題を巡るNGOの動きを検証することで、
今後NGOが人道支援と軍、あるいは政治との関係をどうすれば良いのか探っていきます。

『**国家・社会変革・NGO**』 http://www.shinhyoron.co.jp/cgi-db/s_db/kensakutan.cgi?j1=4-7948-0719-8

の執筆者が、積極的な異議申し立てとしての「Non=否」の志向性を再評価し、取り戻すことを提起します。
「たとえば言えないことがあったとしても、綺麗事を並べ立てるのはもうやめにして、できるだけ本当のことを言おう！」

■日時 2007年12月9日(日) 午後2時~5時(予約不要・参加費500円)

■場所 大阪経済法科大学 東京麻布台セミナーハウス

(アクセス右記参照/地図 <http://kenshu.e-joho.com/azabudai/map.html>)

■プログラム

★ 第I部 軍と人道支援の接近によってもたらされる問題

- 挨拶 藤岡美恵子 (法政大学・同大学院講師)
ファシリテータ 高橋清貴 (日本国際ボランティアセンター [JVC])
「シンポジウムの趣旨について」
パネリスト 長有紀枝 (ジャパン・プラットフォーム [JPF] 代表理事)
「NGOの資金とアイデンティティ」
下澤 嶽 (国際協力NGOセンター [JANIC] 代表理事)
「国際協力NGOの立ち位置」
長谷部貴俊 (日本国際ボランティアセンター [JVC])
「復興支援と対テロ戦争:アフガニスタンの現場から」

★ 第II部 コメントと全体討論~NGOは今、何をすべきか?

- コメンテータ 伊勢崎賢治 (東京外国語大学教授)
中野憲志 (先住民族・第四世界研究)

*主催 〈NGOと社会〉の会(お問い合わせは事務局まで)

*賛同 (株)新評論/反差別国際運動・日本委員会(IMADR-JC)/
平和力フォーラム/ジュマ・ネット (10/22現在)



Access

大阪経済法科大学

東京麻布台セミナーハウス

〒106-0041 東京都港区麻布台1-11-5

TEL 03-3582-2922

地下鉄日比谷線神谷町下車(E1出口)徒歩3分

都営大江戸線赤羽橋駅下車 徒歩8分

〈NGOと社会〉の会とは

2007年2月、『国家・社会変革・NGO』の出版を機に、
その書き手たちによる有志グループ
〈NGOと社会〉の会が発足しました。
当会は、NGOの問題を社会の問題として、
また社会の問題をNGOの問題として相互に捉え合うことで、
これまで別個のものとして語られがちだった両者の関係や、
両者を横断する危機の現実に向けて目を向け、
両者に立ち足る共通課題を正面から見据えてゆこうと
結成されたものです。
私たちは、NGOの自己変革の可能性を信じます。

●代表: 藤岡美恵子

●事務局連絡先: (株)新評論編集部内 〈NGOと社会〉の会
169-0051 東京都新宿区西早稲田3-16-28 (株)新評論
TEL 03-3202-7391 / FAX 03-3202-5832

国家・社会変革・NGO

政治への視線/NGO運動はどこへ向かうべきか

〈開発と文化を問う〉シリーズ⑩

NGOと市民社会の未来に向けて
「生きた社会運動」のための備忘録!
藤岡美恵子・越田清和・中野憲志 編
執筆者は編者3名と、李姫子、下澤嶽、
高橋清貴、サラ・リスター
A5上製 二三四頁 定価三三〇円
新評論刊

